

2月の中小企業月次景況調査

〔平成30年2月末現在〕

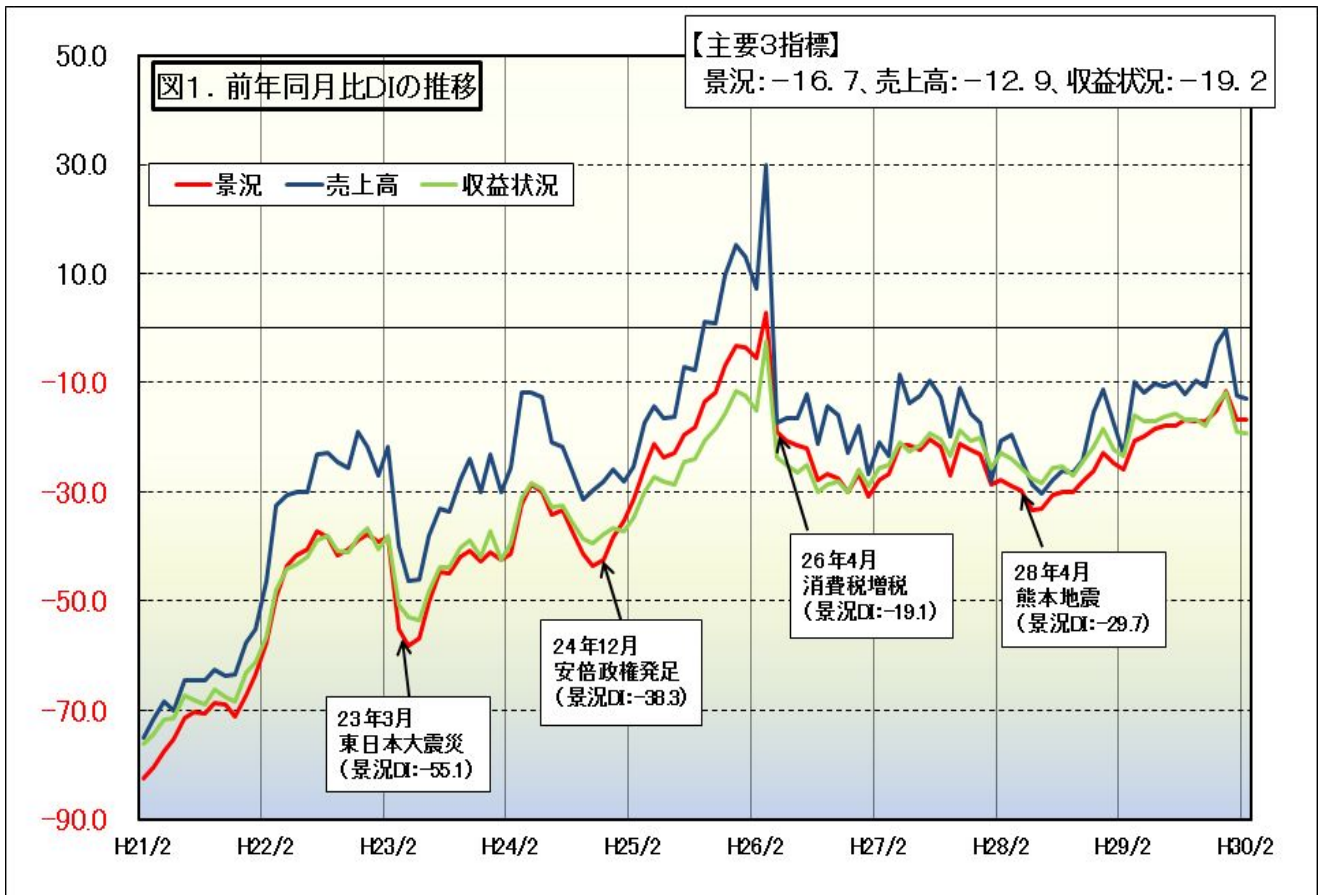


全国中小企業団体中央会
National Federation of Small Business Associations

平成30年3月20日発表

◎2月のD Iは、9指標中4指標が悪化。主要3指標も前月に引き続いて低迷し、特に落ち込みが激しかった売上高D Iは前月比－0.5ポイントとさらに悪化する結果となった。

○先月に引き続き、度重なる大寒波に伴う物流・商流の混乱や操業難が各地で発生したことにより、全国的に経済活動が下押しされたことに加えて、外出控え等による国内消費の減退も強まっている一方、年度末需要の動きを前にして、さらなる製造コストの増大や雇用難・労働力不足も依然逼迫している。



※DIとは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、好転 (増加・上昇) したとする割合から、悪化 (減少・低下) したとする割合を差し引いた値です。

本調査は、都道府県中央会に設置されている情報連絡員〔中小企業の組合 (協同組合、商工組合等) の役職員約2,600名に委嘱〕による調査結果です。
調査の対象は、情報連絡員が所属する組合の組合員の全体的な景況 (前年同月比) です。

(本発表資料のお問い合わせ先)

全国中小企業団体中央会

担当：振興部

TEL 03-3523-4905

<http://www.chuokai.or.jp>

2月の調査結果のD I 概況

【指標D Iの動向とポイント】

- 2月のD Iは、前月比で9指標中4指標が悪化。（資金繰り、設備操業度D Iは不変）
- 主要3D Iのうち、売上高D Iは年末から連続する大寒波・大雪の影響が大きく（前月比-0.5ポイント悪化）、一部に年度末需要の動きも見られるものの、総じて消費動向を下押しする最大要因となっている。
- 需給不調等から仕入/売値の高騰が継続しており、価格転嫁から販売価格D Iは上昇傾向にはあるが、天候不順による内需の減退等から今月も前月比-0.3ポイント下落。

全指標の前年同月比D Iの推移（直近1年間）

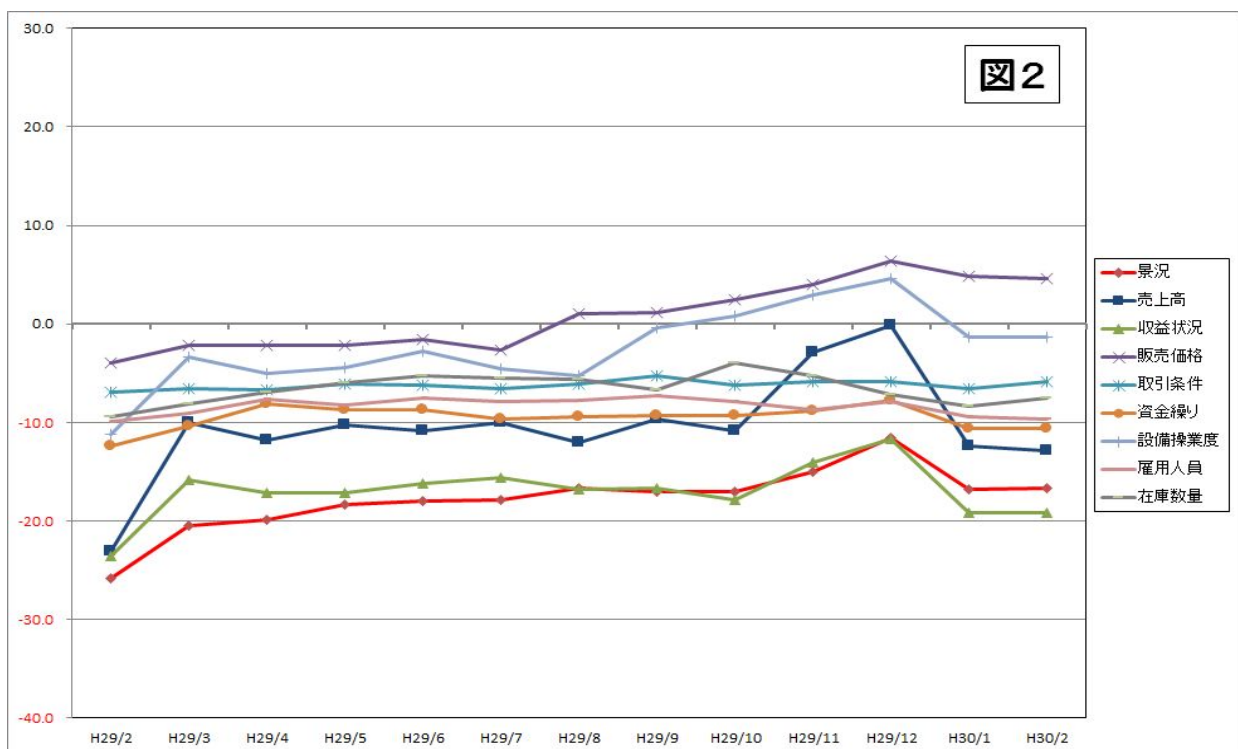


表1	H29												H30		
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	前月比	
景 況	-25.8	-20.5	-19.9	-18.3	-18.0	-17.9	-16.7	-17.0	-17.0	-15.0	-11.5	-16.8	-16.7	0.1	
売 上 高	-23.1	-10.0	-11.8	-10.2	-10.8	-10.0	-12.0	-9.7	-10.8	-2.9	-0.1	-12.4	-12.9	-0.5	
収益状況	-23.5	-15.8	-17.1	-17.1	-16.2	-15.6	-16.8	-16.7	-17.8	-14.1	-11.7	-19.1	-19.2	-0.1	
販売価格	-4.0	-2.2	-2.2	-2.2	-1.6	-2.6	1.0	1.2	2.5	4.0	6.4	4.9	4.6	-0.3	
取引条件	-6.9	-6.5	-6.7	-6.1	-6.2	-6.5	-6.1	-5.3	-6.2	-5.8	-5.8	-6.6	-5.8	0.8	
資金繰り	-12.4	-10.3	-8.1	-8.7	-8.7	-9.7	-9.4	-9.3	-9.3	-8.8	-7.8	-10.6	-10.6	0.0	
設備操業度	-11.2	-3.4	-5.0	-4.4	-2.7	-4.5	-5.3	-0.4	0.8	3.0	4.6	-1.3	-1.3	0.0	
雇用人員	-9.9	-9.1	-7.6	-8.2	-7.5	-7.9	-7.8	-7.3	-7.9	-8.7	-7.9	-9.4	-9.7	-0.3	
在庫数量	-9.4	-8.1	-6.9	-6.0	-5.2	-5.5	-5.6	-6.7	-3.9	-5.3	-7.1	-8.3	-7.5	0.8	

【情報連絡員報告から総括する景況調査のPOINT】

1. 当月も今季最大の寒波が襲来し、九州～北陸地方の広域で断続的な大雪被害に見舞われたことから、各地で交通インフラ障害や操業難も多発し、物流・商流の混乱がさらに拡大。積雪や低温被害による青果物等の品不足も解消されず、売価高騰が常態化していることから、消費動向の“生鮮品離れ”を懸念する声も出始めている。

また、記録的な降雪量と低気温が消費者の外出控えや儉約志向を一層強めており、それに伴って国内消費も減退していることから、上昇する一方の仕入値を価格転嫁することも容易ではない状況にある。

2. 年度末の需要期や転職・退職シーズンに差し掛かり、労働力不足に改善の兆しがないため、短期には受注難や稼働率の低下（＝供給力の減退）、長期にも新事業/製品開発の困難（＝組織力の衰退）が生じており、原料代や人件費など経営コストの上昇基調も相俟って、製造業を中心に受注量や取扱高に比して期待利益を上げられない経営環境が依然として継続している。

《主な報告内容》

◇大寒波・大雪被害に伴う経営の悪化

（１）国内消費の減退

- ・ ３０数年ぶりの記録的な大雪で市民生活も困難に。連日除雪作業に追われ、客数も大幅に減少。消費者の節約・儉約志向も高まっている。（新潟県／商店街）
- ・ 大雪で延べ１，１００件、３，５００名ものキャンセルが発生。周辺道路も通行不可になり、燃料輸送が出来なくなったことに加えて、露天風呂の損壊や停電等による営業停止も発生する等、被害が甚大。（石川県／旅館・ホテル）

（２）物流・商流の混乱と操業難

- ・ 豪雪被害で数日間も操業が停止。その後も原材料・燃料供給が不足して納期遅れも発生。（福井県／織物）
- ・ 初旬は寒波の影響で特に関東・北陸方面への輸送が滞り、出荷減。また北陸・信越方面からの貨物到着も遅れ、商材によっては欠品が続いた。（岡山県／運輸倉庫）

◇経営コストのさらなる増大

- ・ 運送料や梱包資材、電気料金等の値上げが続き、収益悪化にも大きく影響。（富山県／ニット製造）
- ・ 鉄スクラップや副資材（合金鉄、耐火煉瓦、電極等）の価格上昇に加えて、人件費や運送費も高騰しており、売上は増えても収益は悪い。（沖縄県／鉄鋼）
- ・ 仕入価格の高騰や品薄で売上高は増加したが、販売価格には転嫁できずに収益は２０％悪化。（山梨県／青果小売）

◇労働力不足の深刻化

- ・ 人員が常に不足しており、仕事はあっても人材がいない。新規の中途採用者も他の大手が好条件を示すするとすぐ離職してしまうことが多い。（島根県／非鉄金属製造）
- ・ 年度末を控え、退職予定者と新規採用の人員がつり合わず、新年度の人員確保が困難。退職年齢の引き上げも一時凌ぎだ。（北海道／管工事）

※後述の「Pick up!」ならびに「情報連絡員からの報告（要旨）」等も参照。

1. 景 況

2月の景況は、前月と比べて製造業が1.8ポイント悪化、非製造業は1.4ポイント上昇。全体では0.1ポイント上昇の-16.7ポイントだった。

【D I が大きく上昇した業種】

- ・10ポイント超：電気機器
- ・5～10ポイント：繊維・同製品、その他の非製造業

【D I が大きく悪化した業種】

- ・10ポイント超：紙・紙加工品
- ・5～10ポイント：窯業・土石製品、一般機器、輸送機器、その他の製造業

表2. 業種別【景 況】D I の推移（前年同月比）

業 種 名	29/2	29/3	29/4	29/5	29/6	29/7	29/8	29/9	29/10	29/11	29/12	30/1	30/2	前月比
全 体	-25.8	-20.5	-19.9	-18.3	-18.0	-17.9	-16.7	-17.0	-17.0	-15.0	-11.5	-16.8	-16.7	0.1
製 造 業	-23.3	-19.1	-15.7	-15.7	-14.3	-16.3	-15.9	-15.3	-13.1	-8.8	-7.4	-11.6	-13.4	-1.8
食 料 品	-28.2	-24.5	-14.9	-21.2	-21.7	-30.7	-30.0	-29.8	-27.5	-21.7	-19.1	-27.0	-29.8	-2.8
繊維・同製品	-38.2	-37.0	-32.3	-35.2	-35.2	-36.3	-33.1	-36.3	-31.7	-25.4	-22.1	-27.0	-17.8	9.2
木材・木製品	-26.1	-25.8	-21.5	-22.5	-24.0	-19.2	-23.8	-17.7	-23.8	-21.4	-21.1	-25.5	-28.1	-2.6
紙・紙加工品	-21.8	-20.9	-36.4	-37.5	-21.8	-17.4	-25.0	-17.4	-8.3	-8.4	-9.6	-14.3	-33.3	-19.0
印 刷	-32.3	-21.9	-24.5	-27.5	-36.5	-37.1	-41.3	-30.1	-31.1	-33.9	-29.5	-29.5	-29.5	0.0
化 学 ゴ ム	-10.3	-6.9	-20.7	-6.9	0.0	3.5	-3.5	-3.5	-6.9	-3.5	3.5	3.5	3.3	-0.2
窯業・土石製品	-28.2	-26.7	-22.0	-16.1	-14.5	-19.1	-16.9	-21.3	-17.8	-8.7	-14.8	-23.0	-32.1	-9.1
鉄 鋼 ・ 金 属	-13.1	-5.9	-6.6	-1.4	10.1	9.4	8.8	8.6	11.4	17.1	20.1	17.4	20.6	3.2
一 般 機 器	0.0	7.1	11.5	14.8	14.3	10.9	15.8	12.4	20.7	20.1	19.4	23.0	15.0	-8.0
電 気 機 器	-3.0	0.0	0.0	8.3	16.2	0.0	7.9	18.4	14.3	22.8	25.0	11.4	23.6	12.2
輸 送 機 器	-21.9	-14.7	-14.6	-12.2	-10.0	-7.3	-14.6	-17.0	-7.5	2.5	2.4	7.5	2.4	-5.1
そ の 他	-36.4	-30.3	-24.0	-30.9	-38.8	-30.2	-24.5	-23.5	-23.1	-27.7	-18.8	-23.1	-28.8	-5.7
非 製 造 業	-27.7	-21.6	-23.1	-20.2	-20.9	-19.2	-17.3	-18.4	-20.0	-19.6	-14.7	-20.7	-19.3	1.4
卸 売 業	-28.5	-23.4	-28.8	-19.1	-17.8	-20.8	-17.8	-19.9	-21.9	-21.2	-14.2	-20.6	-19.2	1.4
小 売 業	-45.3	-37.7	-36.3	-32.6	-31.6	-27.6	-30.2	-33.8	-33.7	-35.9	-27.9	-30.3	-28.6	1.7
商 店 街	-38.9	-30.9	-34.1	-36.4	-33.5	-33.7	-33.6	-31.0	-32.9	-31.5	-23.1	-35.2	-38.7	-3.5
サ ー ビ ス 業	-16.0	-6.4	-9.6	-6.4	-11.4	-11.1	-8.6	-12.3	-14.8	-10.4	-10.2	-15.2	-14.2	1.0
建 設 業	-11.4	-10.1	-10.4	-10.6	-9.6	-6.8	-0.4	1.6	1.2	-0.9	-0.4	-6.7	-2.5	4.2
運 輸 業	-23.4	-19.0	-21.7	-18.2	-24.2	-18.0	-13.6	-10.6	-16.5	-14.1	-7.6	-16.7	-13.9	2.8
そ の 他	-14.8	-22.2	-7.7	-14.3	-18.5	-10.4	-7.2	-14.3	-10.7	-17.9	-7.4	-11.1	-3.7	7.4

Pick up!

「紙・紙加工品」は、記録的な大寒波と降雪で消費動向が低迷しており、それに関連して製品の梱包・包装需要も大きく減退。加えて、配送料や原材料費等も値上げ基調にあるため、収益圧迫が強まっていることから、**前月比-19.0ポイントと大きく悪化**した。

「建設業」は、通例の年度末需要の動きが出始め、施工案件が増加していることや大雪・低温被害を受けての修理・除雪依頼も急増していることに伴い、**前月比+4.2ポイント上昇**している。

2. 売 上 高

2月の売上高は、前月より製造業が1.6ポイント悪化、非製造業も0.4ポイント上昇。
全体では0.5ポイント悪化の-12.9ポイントとなった。

【D I が大きく上昇した業種】

- ・ 10ポイント超：化学ゴム、その他の非製造業
- ・ 5～10ポイント：印刷、電気機器、建設業

【D I が大きく悪化した業種】

- ・ 10ポイント超：紙・紙加工品、輸送機器
- ・ 5～10ポイント：食料品、木材・木製品、一般機器、商店街、運輸業

表3. 業種別【売上高】D I の推移（前年同月比）

業 種 名	29/2	29/3	29/4	29/5	29/6	29/7	29/8	29/9	29/10	29/11	29/12	30/1	30/2	前月比
全 体	-23.1	-10.0	-11.8	-10.2	-10.8	-10.0	-12.0	-9.7	-10.8	-2.9	-0.1	-12.4	-12.9	-0.5
製 造 業	-21.7	-7.1	-7.7	-5.4	-5.7	-9.7	-9.1	-4.7	-3.8	2.5	4.1	-6.6	-8.2	-1.6
食 料 品	-34.2	-20.5	-8.4	-19.4	-12.4	-29.2	-21.8	-24.3	-21.5	-7.4	-4.0	-21.5	-27.8	-6.3
繊維・同製品	-39.8	-28.3	-25.0	-23.2	-28.0	-28.2	-22.0	-25.0	-17.1	-7.9	-13.1	-13.9	-9.7	4.2
木材・木製品	-20.2	-11.7	-19.9	-12.5	-20.7	-13.4	-23.8	-5.9	-19.5	-11.1	-16.0	-19.4	-26.4	-7.0
紙・紙加工品	-13.0	-8.3	-22.7	-12.5	-26.1	-8.7	0.0	-26.1	-4.1	4.2	9.6	14.3	-23.8	-38.1
印 刷	-32.2	-9.4	-26.2	-24.2	-41.3	-42.0	-41.2	-31.7	-31.2	-24.2	-18.0	-41.0	-34.5	6.5
化 学 ゴ ム	17.3	13.8	3.4	24.2	6.9	31.1	6.9	24.2	38.0	20.7	31.1	17.2	30.0	12.8
窯業・土石製品	-12.2	-6.7	-8.8	5.2	7.3	-8.1	-8.9	-5.2	-17.8	-2.9	-4.4	-32.6	-27.7	4.9
鉄 鋼 ・ 金 属	-10.3	3.6	2.9	6.6	18.8	13.1	18.2	23.0	25.0	26.4	33.0	25.3	26.4	1.1
一 般 機 器	-11.8	18.6	12.4	19.4	25.0	25.5	20.1	18.6	31.5	38.6	37.2	32.8	24.8	-8.0
電 気 機 器	-14.7	18.9	25.0	8.3	18.9	5.2	23.7	42.1	42.8	31.4	19.4	25.7	34.2	8.5
輸 送 機 器	-9.7	14.6	4.9	26.8	0.0	0.0	-4.9	-2.4	5.0	7.5	7.3	12.5	2.4	-10.1
そ の 他	-34.5	-23.2	-18.5	-29.1	-33.3	-30.2	-35.8	-19.7	-17.3	-14.8	-7.5	-21.1	-19.2	1.9
非 製 造 業	-24.3	-12.2	-15.0	-14.0	-14.8	-10.3	-14.1	-13.4	-16.1	-7.7	-3.4	-16.8	-16.4	0.4
卸 売 業	-26.7	-17.1	-24.7	-12.7	-12.3	-12.6	-22.9	-16.7	-13.2	-6.0	6.0	-11.4	-11.4	0.0
小 売 業	-37.9	-28.3	-23.7	-29.0	-26.3	-16.1	-21.9	-22.1	-29.3	-21.1	-8.0	-18.6	-16.0	2.6
商 店 街	-36.4	-26.0	-18.6	-23.1	-28.6	-25.9	-25.6	-29.2	-41.4	-18.8	-16.5	-33.3	-41.0	-7.7
サ ー ビ ス 業	-17.1	5.6	-0.3	5.7	-0.4	4.0	-3.2	-3.9	-11.2	-4.0	-8.0	-22.0	-19.4	2.6
建 設 業	-7.6	-4.2	-13.4	-13.1	-10.1	-10.9	-5.0	-7.5	-0.4	3.3	-3.8	-10.6	-5.4	5.2
運 輸 業	-13.7	3.8	-9.8	-7.6	-12.8	0.0	-5.3	0.8	1.5	11.2	20.6	-0.8	-10.7	-9.9
そ の 他	-29.6	-22.2	0.0	-21.4	-7.4	-17.3	-14.3	-7.2	3.6	-14.3	-7.4	-18.5	0.0	18.5

Pick up!

「**商店街**」は、数十年ぶりの大寒波に伴う豪雪被害で交通が寸断され、先月に続いて集客が激減。各地で連日の除雪作業に追われる等、営業活動そのものが覚束ない状況も生じたことから、**前月比 -7.7ポイントと大幅な悪化**が今月も続く。

「**運輸業**」も、記録的な積雪から幹線道路や高速道の通行止め・立ち往生が九州・北陸地方等を中心に発生し、配送が大幅に遅延。他業種への影響も大きかった。また、慢性化しているドライバー不足から受注を断らざるを得ないケースや燃料費の負担増も重なり、**前月比 -9.9ポイントと大きく下落**した。

3. 収益状況

2月の収益状況は、前月より製造業が6.6ポイント悪化、非製造業も7.9ポイント悪化。全体では7.4ポイント悪化の-19.1ポイントとなった。

【D I が大きく上昇した業種】

- ・ 10ポイント超：その他の非製造業
- ・ 5～10ポイント：繊維・同製品、電気機器、輸送機器

【D I が大きく悪化した業種】

- ・ 10ポイント超：紙・紙加工品
- ・ 5～10ポイント：一般機器

表4. 業種別【収益状況】D I の推移（前年同月比）

業 種 名	29/2	29/3	29/4	29/5	29/6	29/7	29/8	29/9	29/10	29/11	29/12	30/1	30/2	前月比
全 体	-23.5	-15.8	-17.1	-17.1	-16.2	-15.6	-16.8	-16.7	-17.8	-14.1	-11.7	-19.1	-19.2	-0.1
製 造 業	-20.1	-15.3	-15.5	-14.7	-13.0	-15.0	-16.6	-14.4	-14.0	-9.7	-8.6	-15.2	-15.8	-0.6
食 料 品	-25.2	-19.6	-18.3	-18.9	-17.9	-25.6	-27.5	-24.7	-25.5	-19.7	-16.1	-25.0	-29.8	-4.8
繊維・同製品	-31.2	-26.8	-31.5	-25.6	-24.8	-28.3	-30.0	-29.9	-26.0	-17.5	-18.8	-23.0	-15.3	7.7
木材・木製品	-16.0	-17.5	-17.3	-20.8	-19.8	-22.5	-24.6	-15.1	-26.3	-22.3	-24.4	-29.7	-32.3	-2.6
紙・紙加工品	-21.7	-20.8	-27.3	-45.8	-17.4	-13.0	-20.9	-21.8	-25.0	-25.0	-14.3	-38.1	-57.1	-19.0
印 刷	-29.0	-23.4	-34.4	-32.3	-33.3	-32.3	-42.8	-31.7	-31.1	-29.1	-19.7	-27.9	-26.2	1.7
化 学 ゴ ム	-10.3	-20.7	-24.1	-6.9	-24.1	-6.9	-20.7	-17.3	-13.8	-10.4	-6.9	-3.4	-3.3	0.1
窯業・土石製品	-17.6	-15.5	-14.7	-11.0	-10.2	-13.2	-13.3	-13.2	-17.7	-8.0	-8.8	-29.6	-28.4	1.2
鉄 鋼 ・ 金 属	-14.6	-6.6	-5.1	-5.9	5.8	2.2	1.4	1.4	2.1	6.4	5.7	7.2	6.6	-0.6
一 般 機 器	-7.3	5.3	0.0	5.5	10.7	7.3	10.6	4.4	16.2	17.6	17.7	14.1	8.0	-6.1
電 気 機 器	-14.7	2.7	13.8	8.4	0.0	-2.6	5.3	18.4	28.5	20.0	13.9	8.5	15.8	7.3
輸 送 機 器	-22.0	-14.6	-4.9	-4.9	-20.0	-14.7	-24.3	-14.7	-7.5	-2.5	-4.9	0.0	7.4	7.4
そ の 他	-25.4	-28.6	-20.4	-25.4	-29.6	-16.9	-15.1	-19.7	-21.1	-25.9	-18.8	-21.1	-21.1	0.0
非 製 造 業	-26.1	-16.2	-18.3	-18.9	-18.7	-16.0	-17.0	-18.6	-20.7	-17.5	-14.1	-22.0	-21.8	0.2
卸 売 業	-26.7	-17.6	-23.3	-21.8	-16.0	-21.3	-20.6	-24.5	-21.5	-14.7	-11.5	-17.4	-15.5	1.9
小 売 業	-41.2	-35.9	-31.3	-31.9	-33.1	-26.4	-28.4	-31.2	-31.1	-33.0	-21.7	-27.7	-29.2	-1.5
商 店 街	-33.9	-26.1	-23.0	-24.2	-29.2	-27.7	-26.2	-29.9	-37.8	-27.2	-23.2	-35.2	-38.7	-3.5
サ ー ビ ス 業	-19.5	1.8	-3.5	-3.2	-5.0	-2.9	-6.5	-8.8	-13.7	-6.5	-12.3	-19.9	-17.5	2.4
建 設 業	-10.5	-8.0	-10.8	-10.5	-10.0	-9.3	-4.2	-6.7	-4.2	-1.2	-3.0	-8.4	-8.0	0.4
運 輸 業	-19.0	-5.3	-19.4	-22.0	-20.4	-6.8	-15.1	-8.3	-19.5	-23.1	-11.4	-26.5	-27.0	-0.5
そ の 他	-22.2	-11.1	-3.9	-17.9	-7.4	-10.4	-17.9	-7.2	0.0	-14.3	-11.1	-25.9	-14.8	11.1

Pick up!

「**繊維・同製品**」は、原材料や配送、光熱費等の上昇傾向に加えて、北陸地方を中心に大雪による大雪で操業が困難となる事業者も出たが、低気温による冬物需要の動きが長期化していること等もあり、**前月比+7.7ポイント上昇**。

「**一般機器**」は、受注量が堅調に推移している反面、人手不足もさらに悪化。新年度採用の時期に差し掛かったが、中途に加えて新卒採用は非常に困難との声も根強く、そうした事態に伴う製造コストの上昇が緩まない状況から、**前月比-6.1ポイントと下落**することになった。

4. 資金繰り、販売価格、取引条件、設備操業度、雇用人員、在庫数量

(1) 資金繰り

製造業は-7.7(前月-8.4)、非製造業は-12.9(前月-12.3)、全体では-10.6(前月-10.6)となり、前月と不変だった。

(2) 販売価格

製造業は1.8(前月2.6)、非製造業は6.8(前月6.6)、全体では4.6(前月4.9)となり、前月と比べて0.3ポイントの悪化となった。

(3) 取引条件

製造業は-4.5(前月-4.6)、非製造業は-6.9(前月-8.2)、全体では-5.8(前月-6.6)となり、前月と比べて0.8ポイントの上昇となった。

(4) 設備操業度（製造業のみ）

設備操業度は-1.3(前月-1.3)となり、前月と不変だった。

(5) 雇用人員

製造業は-5.2(前月-4.4)、非製造業は-13.2(前月-13.3)、全体では-9.7(前月-9.4)となり、前月と比べて0.3ポイントの悪化となった。

(6) 在庫数量

製造業は-6.4(前月-7.5)、非製造業は-9.1(前月-9.4)、全体では-7.5(前月-8.3)となり、前月と比べて0.8ポイントの上昇となった。

~~ *Calendar 2017* 国内外の主なトピックス（平成30年2月） ~~

- | | |
|-----------------|---|
| 2月1日（木） | 参議院本会議で、平成29年度補正予算案が自民・公明党と日本維新の会等の賛成多数で可決・成立 |
| 2月1日（木） | 韓国の朴槿恵前大統領、総選挙の際に違法な世論操作に関与した疑いで追起訴。 |
| 2月4日（日） | 今季最大級の大寒波が列島に襲来。全国各地で記録的な降雪量となり、交通や流通等に大きく影響。 |
| 2月5日（月） | ダウ工業株30種平均の終値が前週末比で暴落し、史上最大の下げ幅に。(1,175ドル21セント安) |
| 2月7日（水） | 厚生労働省、2017年の実質賃金は前年比0.2%減と発表。物価変動（物価の上昇）の影響が拡大。 |
| 2月8日（木） | 米国・厚生労働省、2017年の実質賃金は前年比0.2%減と発表。 |
| 2月8日（木） | 財務省、12月の経常収支は7,972億円の黒字と発表。他方、貿易収支の黒字縮小から市場予想を下回る結果となった。 |
| 2月14日（水） | 内閣府、10-12月期の国内総生産(1次速報値)が前期比0.1%増と発表。 |
| 2月16日（金） | 総務省、2017年の消費支出は前年比0.3%減と発表。家計消費は4年連続で減少となり、「食料」「教育」「娯楽」の減少が顕著に。 |
| 2月18日（日） | 経済協力開発機構、2017年の韓国の失業率は3.73%と発表。4年連続の悪化に。 |

表5. 主要指標の業種別 D I(前年同月比)

(平成30年2月末現在)

	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	設備操業度	雇用人員	在庫数量
全 体	-16.7	-12.9	-19.2	4.6	-5.8	-10.6	-1.3	-9.7	-7.5
製 造 業	-13.4	-8.2	-15.8	1.8	-4.5	-7.7	-1.3	-5.2	-6.4
非 製 造 業	-19.3	-16.4	-21.8	6.8	-6.9	-12.9		-13.2	-9.1

(製 造 業)

業 種 名	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	設備操業度	雇用人員	在庫数量
食 料 品	-29.8	-27.8	-29.8	2.5	-6.0	-14.9	-14.4	-16.9	-8.9
繊維・同製品	-17.8	-9.7	-15.3	-5.6	-4.1	-10.5	-7.2	-15.3	-12.0
木材・木製品	-28.1	-26.4	-32.3	6.6	-9.1	-9.1	-10.8	-7.4	-18.2
紙・紙加工品	-33.3	-23.8	-57.1	0.0	-19.0	-14.2	-23.8	4.7	-4.8
印 刷	-29.5	-34.5	-26.2	-21.3	-18.0	-23.0	-19.7	-14.8	-1.7
化 学 ゴ ム	3.3	30.0	-3.3	-3.4	-10.0	-6.7	10.0	16.6	13.3
窯業・土石製品	-32.1	-27.7	-28.4	15.3	-3.7	-13.1	-16.0	-10.2	-7.3
鉄 鋼 ・ 金 属	20.6	26.4	6.6	7.3	1.5	5.2	22.8	5.1	-3.0
一 般 機 器	15.0	24.8	8.0	3.5	3.5	7.9	19.4	8.8	3.5
電 気 機 器	23.6	34.2	15.8	-13.2	0.0	7.9	39.5	15.8	5.3
輸 送 機 器	2.4	2.4	7.4	-4.9	0.0	2.4	26.8	0.0	-9.7
そ の 他	-28.8	-19.2	-21.1	-1.9	-5.8	-23.1	-11.5	0.0	-7.7

(非製造業)

業 種 名	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	設備操業度	雇用人員	在庫数量
卸 売 業	-19.2	-11.4	-15.5	12.8	-8.7	-9.6		-10.0	-5.9
小 売 業	-28.6	-16.0	-29.2	18.7	-11.7	-21.0		-15.1	-8.8
商 店 街	-38.7	-41.0	-38.7	-7.2	-13.7	-26.8		-13.7	-14.3
サービス業	-14.2	-19.4	-17.5	1.5	-3.2	-8.4		-15.0	
建 設 業	-2.5	-5.4	-8.0	2.5	-0.9	-2.1		-8.4	
運 輸 業	-13.9	-10.7	-27.0	3.1	-2.4	-10.7		-21.5	
そ の 他	-3.7	0.0	-14.8	3.7	0.0	0.0		3.7	

表6. 主要指標の業種別景況調査総括表(前年同月比)

(平成 30年 2月 末現在)

(単位: %)

業 種	項 目	業界の景況			売上高			収益状況			販売価格			取引条件			資金繰り			設備稼働度			雇用人員			在庫数量		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	増加	不変	減少	増加	不変	減少
全 体	製造業	8.7	65.8	25.4	20.0	47.0	32.9	9.1	62.6	28.3	12.6	79.4	8.0	2.5	89.2	8.3	4.3	80.8	14.9	14.7	69.3	16.0	5.1	80.1	14.8	8.5	75.5	16.0
		10.4	65.8	23.8	21.8	48.2	30.0	9.8	64.7	25.6	9.2	83.3	7.4	2.3	90.9	6.8	5.1	82.0	12.8	14.7	69.3	16.0	8.0	78.8	13.2	8.6	76.5	15.0
非 製造業	建設業	7.4	65.9	26.7	18.7	46.2	35.1	8.6	61.0	30.4	15.2	76.3	8.4	2.6	87.8	9.5	3.6	79.8	16.5	0.0	0.0	0.0	2.9	81.1	16.1	8.4	74.1	17.5

(製造業)

業 種	項 目	業界の景況			売上高			収益状況			販売価格			取引条件			資金繰り			設備稼働度			雇用人員			在庫数量		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	増加	不変	減少	増加	不変	減少
食 料	繊維・同製品	2.5	65.2	32.3	9.0	54.2	36.8	3.0	64.2	32.8	7.0	88.6	4.5	0.0	94.0	6.0	2.0	81.1	16.9	3.5	78.6	17.9	3.0	77.1	19.9	8.5	74.1	17.4
		4.8	72.6	22.6	13.7	62.9	23.4	6.5	71.8	21.8	6.5	81.5	12.1	4.0	87.9	8.1	3.2	83.1	13.7	10.5	71.8	17.7	2.4	79.8	17.7	6.5	75.0	18.5
木 材	木製品	0.8	70.2	28.9	11.6	50.4	38.0	4.1	59.5	36.4	16.5	73.6	9.9	0.8	89.3	9.9	4.1	82.6	13.2	6.6	76.0	17.4	5.8	81.0	13.2	9.1	63.6	27.3
		4.8	57.1	38.1	14.3	47.6	38.1	4.8	33.3	61.9	14.3	71.4	14.3	0.0	81.0	19.0	4.8	76.2	19.0	9.5	57.1	33.3	19.0	66.7	14.3	23.8	47.6	28.6
紙 ・ 紙加工品	印刷	4.9	60.7	34.4	9.8	45.9	44.3	3.3	67.2	29.5	0.0	78.7	21.3	0.0	82.0	18.0	0.0	77.0	23.0	9.8	60.7	29.5	0.0	85.2	14.8	4.9	88.5	6.6
		13.3	76.7	10.0	43.3	43.3	13.3	10.0	76.7	13.3	3.3	90.0	6.7	0.0	90.0	10.0	0.0	93.3	6.7	23.3	63.3	13.3	23.3	70.0	6.7	20.0	73.3	6.7
化 学	窯業・土石製品	7.3	53.3	39.4	21.9	28.5	49.6	11.7	48.2	40.1	19.7	75.9	4.4	2.9	90.5	6.6	7.3	72.3	20.4	9.5	65.0	25.5	2.2	85.4	12.4	5.8	81.0	13.1
		26.5	67.6	5.9	38.2	50.0	11.8	16.9	72.8	10.3	11.0	85.3	3.7	4.4	92.6	2.9	7.4	90.4	2.2	29.4	64.0	6.6	11.0	83.1	5.9	5.1	86.8	8.1
鉄 鋼	一般機器	21.2	72.6	6.2	35.4	54.0	10.6	16.8	74.3	8.8	4.4	94.7	0.9	5.3	92.9	1.8	10.6	86.7	2.7	26.5	66.4	7.1	15.0	78.8	6.2	11.5	80.5	8.0
		28.9	65.8	5.3	50.0	34.2	15.8	26.3	63.2	10.5	2.6	81.6	15.8	0.0	100.0	0.0	13.2	81.6	5.3	42.1	55.3	2.6	26.3	63.2	10.5	21.1	63.2	15.8
電 気	輸送機器	19.5	63.4	17.1	31.7	39.0	29.3	22.0	63.4	14.6	4.9	85.4	9.8	7.3	85.4	7.3	7.3	87.8	4.9	31.7	63.4	4.9	22.0	56.1	22.0	4.9	80.5	14.6
		5.8	59.6	34.6	15.4	50.0	34.6	5.8	67.3	26.9	5.8	86.5	7.7	0.0	94.2	5.8	1.9	73.1	23.0	5.8	76.9	17.3	9.6	80.8	9.6	7.7	76.9	15.4

(非製造業)

業 種	項 目	業界の景況			売上高			収益状況			販売価格			取引条件			資金繰り			設備稼働度			雇用人員			在庫数量		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	増加	不変	減少	増加	不変	減少
卸 売	小 売	9.1	62.6	28.3	22.4	43.8	33.8	11.9	60.7	27.4	24.2	64.4	11.4	2.3	86.8	11.0	5.0	80.4	14.6				4.6	80.8	14.6	11.0	72.1	16.9
		6.1	59.2	34.7	24.2	35.6	40.2	8.0	53.4	37.9	28.3	62.1	9.6	2.3	83.7	14.0	2.9	73.2	23.9				1.2	82.5	16.3	8.7	73.8	17.5
商 店	サ ー ビ ス	2.4	56.5	41.1	5.4	48.2	46.4	3.0	55.4	41.7	7.7	77.4	14.9	0.6	85.1	14.3	1.2	70.8	28.0				1.8	82.7	15.5	4.2	77.4	18.5
		6.6	72.6	20.8	15.3	50.0	34.7	9.1	64.2	26.6	6.6	88.3	5.1	2.6	91.6	5.8	4.4	82.8	12.8				2.9	79.2	17.9			
建 設	運 輸	11.8	73.9	14.3	20.2	54.2	25.6	9.2	73.5	17.2	8.4	85.7	5.9	4.6	89.9	5.5	5.0	87.8	7.1				2.5	86.6	10.9			
		9.2	67.7	23.1	20.8	47.7	31.5	9.2	54.6	36.2	7.7	87.7	4.6	3.8	90.0	6.2	3.1	83.1	13.8				6.2	66.2	27.7			
そ の 他	その他	3.7	88.9	7.4	14.8	70.4	14.8	0.0	85.2	14.8	7.4	88.9	3.7	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0				3.7	96.3	0.0			

表7. 全国及び各地域別の【業界の景況・売上高・収益状況】(前年同月比)

(平成 30年 2月 末現在)

〔全 国〕

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化
業 種									
全 体	8.7	65.8	25.4	20.0	47.0	32.9	9.1	62.6	28.3
製造業	10.4	65.8	23.8	21.8	48.2	30.0	9.8	64.7	25.6
非製造業	7.4	65.9	26.7	18.7	46.2	35.1	8.6	61.0	30.4

〔近畿地方〕

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	6.9	62.8	30.2	18.8	47.2	34.0	-15.2	6.3	30.2
製造業	10.1	58.0	31.9	23.9	44.9	31.2	-7.3	8.7	30.4
非製造業	4.0	67.3	28.7	14.0	49.3	36.7	-22.7	4.0	30.0

滋賀県、京都府、奈良県、大阪府、兵庫県、和歌山県

〔北海道・東北地方〕

北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	6.3	66.8	27.0	14.7	48.2	37.1	-22.4	5.4	61.3
製造業	5.2	70.9	23.9	14.2	48.5	37.3	-23.1	4.5	67.2
非製造業	6.9	64.4	28.8	15.0	48.1	36.9	-21.9	6.0	57.9

青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

〔中国地方〕

鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	7.4	72.1	20.5	24.2	44.3	31.6	-7.4	11.1	65.2
製造業	9.7	72.6	17.7	24.8	48.7	26.5	-1.7	8.0	73.5
非製造業	5.3	71.8	22.9	23.7	40.5	35.9	-12.2	13.7	58.0

〔関東・甲信越地方〕

茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、長野県、山梨県

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	12.0	62.8	25.2	21.7	47.2	31.2	-9.5	10.6	63.2
製造業	13.4	64.2	22.4	24.6	46.6	28.7	-4.1	11.9	64.6
非製造業	11.0	61.8	27.3	19.5	47.6	32.9	-13.4	9.6	62.3

〔四国地方〕

徳島県、香川県、愛媛県、高知県

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	6.7	66.3	27.0	17.4	53.4	29.2	-11.8	6.2	65.2
製造業	3.8	75.0	21.3	11.3	67.5	21.3	-10.0	5.0	72.5
非製造業	9.2	59.2	31.6	22.4	41.8	35.7	-13.3	7.1	59.2

〔東海・北陸地方〕

静岡県、愛知県、岐阜県、三重県、富山県、石川県、福井県

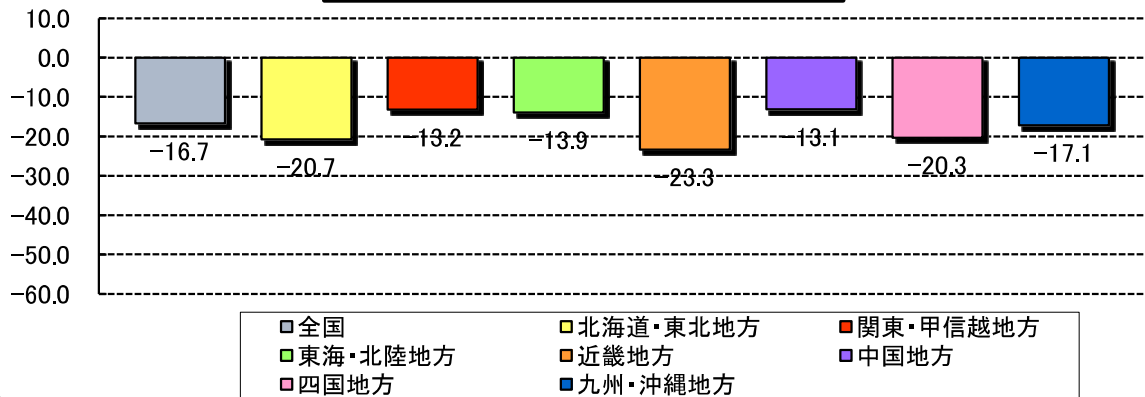
項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	11.1	63.9	25.0	21.6	46.6	31.8	-10.2	11.6	57.9
製造業	17.5	58.7	23.8	26.5	46.6	27.0	-0.5	14.8	56.1
非製造業	4.7	69.1	26.2	16.8	46.6	36.6	-19.8	8.4	59.7

〔九州・沖縄地方〕

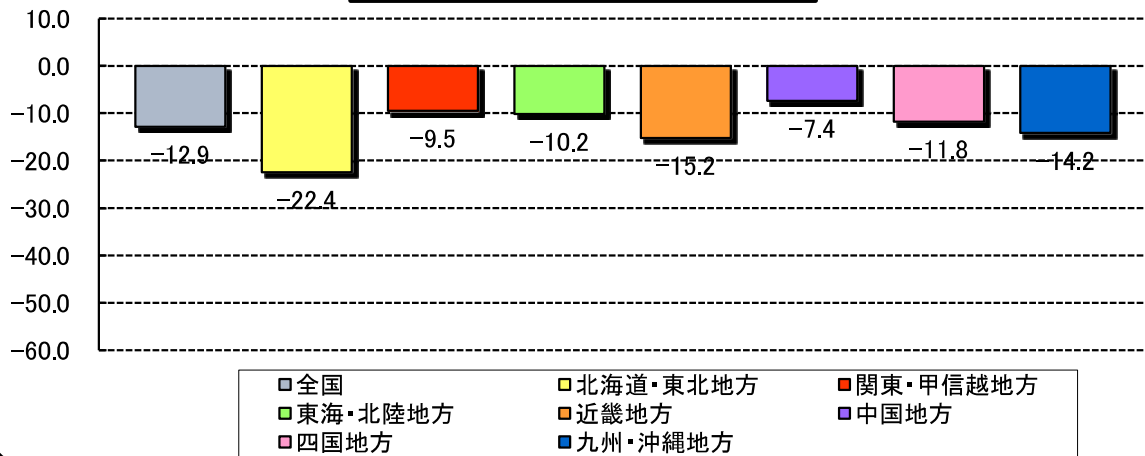
福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

項 目	業界の景況			売上高			収益状況		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	DI	好転	悪化
業 種									
全 体	6.4	70.1	23.5	20.5	44.8	34.7	-14.2	9.9	64.0
製造業	5.2	69.9	24.8	19.0	45.1	35.9	-16.9	9.2	66.0
非製造業	7.2	70.3	22.5	21.6	44.6	33.8	-12.2	10.4	62.6

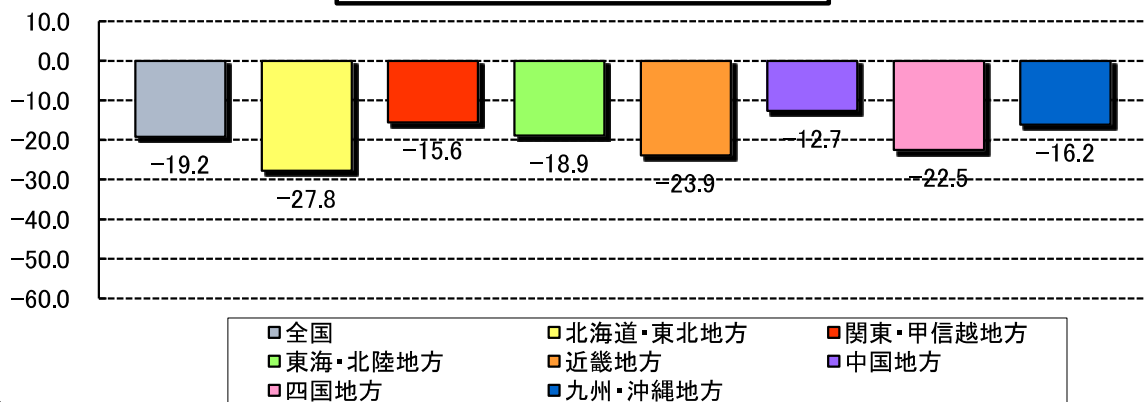
全国及び各地域別の【業界の景況DI(全体)】
(平成30年2月末現在・前年同月比)



全国及び各地域別の【売上高DI(全体)】
(平成30年2月末現在・前年同月比)



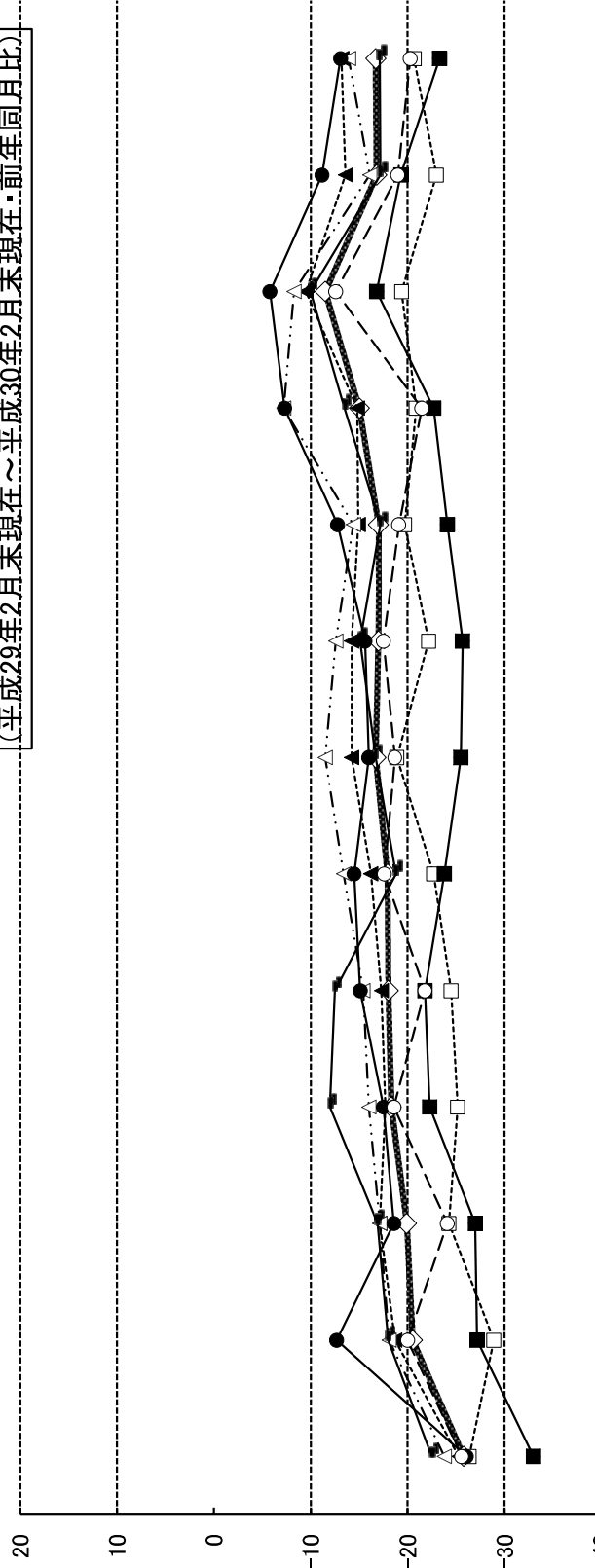
全国及び各地域別の【収益状況DI(全体)】
(平成30年2月末現在・前年同月比)



〔北海道・東北地方〕
〔関東・甲信越地方〕
〔東海・北陸地方〕
〔近畿地方〕
〔中国地方〕
〔四国地方〕
〔九州・沖縄地方〕

北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、長野県、山梨県
静岡県、愛知県、岐阜県、三重県、富山県、石川県、福井県
滋賀県、京都府、奈良県、大阪府、兵庫県、和歌山県
鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
徳島県、香川県、愛媛県、高知県
福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

全国及び各地域別の【業界の景況DI(全体)の推移】
(平成29年2月末現在～平成30年2月末現在・前年同月比)



	2月末	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末	9月末	10月末	11月末	12月末	30年 1月末	2月末
系列1	-25.8	-20.5	-19.9	-18.3	-18	-17.9	-16.7	-17	-17	-15	-11.5	-16.8	-16.7
系列2	-26.4	-28.9	-24.3	-25.2	-24.5	-22.7	-18.9	-22.2	-19.7	-20.9	-19.4	-23	-20.7
系列3	-25.3	-18.7	-17.1	-17.7	-17.3	-16.2	-14.2	-14.2	-14.9	-14.8	-9.5	-13.6	-13.2
系列4	-23.8	-18.1	-17.1	-16	-15.4	-13.4	-11.5	-12.6	-14.4	-7.2	-8.3	-16.1	-13.9
系列5	-33	-27.2	-27	-22.3	-21.8	-23.8	-25.5	-25.7	-24.1	-22.7	-16.8	-19.3	-23.3
系列6	-26.1	-12.7	-18.6	-17.5	-15.1	-14.5	-16	-15.6	-12.8	-7.3	-5.8	-11.2	-13.1
系列7	-25.6	-20	-24.1	-18.6	-21.8	-17.6	-18.7	-17.5	-19.1	-21.5	-12.6	-19	-20.3
系列8	-22.5	-18	-16.9	-12	-12.5	-18.8	-16.7	-15.1	-17.2	-13.5	-10	-17.2	-17.1

〔北海道・東北地方(系列2)〕 北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
〔関東・甲信越地方(系列3)〕 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県
〔東海・北陸地方(系列4)〕 静岡県、愛知県、岐阜県、三重県、富山県、石川県、福井県
〔近畿地方(系列5)〕 滋賀県、京都府、奈良県、大阪府、兵庫県、和歌山県
〔中国地方(系列6)〕 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
〔四国地方(系列7)〕 徳島県、香川県、愛媛県、高知県
〔九州・沖縄地方(系列8)〕 福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

※系列1は全国の数値です。

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品製造業

1. <宮城県 パン>

大手、中小を問わず人手不足が深刻化。最低賃金の引上げは時給の高騰を引き起こしており、人手確保のために無理に時給を上げて求人をしなくてはならない状況である。当然、既存のパート社員等の時給も併せて上げる必要があるため、中小企業にとっては死活問題である。

2. <秋田県 製麺>

中旬から降雪量が増えて輸送経費等も上昇。また石油製品も値上がりし、コスト増の状況。

3. <福島県 漬物>

生野菜が極端に高く、仕入値も高騰。売れ行きは好調でも、全く利益が出ずに出荷できない製品も多い。大変厳しい状況だ。

4. <茨城県 納豆>

人件費や物流費の値上がり等から全体的に悪化。また大豆等の原材料の高騰も続いており、業界全体で収益が悪くなってきている。4月頃より、商品値上げを見込んでいる。

5. <三重県 豆腐>

ガソリンや灯油価格が値上がりしていることから、収益が減少している。

6. <兵庫県 食料品>

正月三が日の出足はまずまず。それ以降は寒波もあり、外食関係の客足が鈍い。採用難と客数減少から営業時間を短縮している店舗もある。

7. <愛媛県 菓子>

原材料価格の高止まりが続き、物流費の上昇も継続。また人手不足による人件費高騰が深刻で、収益を圧迫し続けている。生産性の向上と省力化に真剣に取り組む必要がある。

8. <鹿児島県 蒲鉾>

正月の帰省客は県外ナンバーの車が減少しているように感じたが、デパート・空港・駅等の売上は前年並み。しかし、旅行客は県内の山手が雪の影響を受けており、減少している。

繊維・同製品製造業

9. <山形県 織物製成人女子・少女服>

寒さの影響で冬物のセール商品が好調らしく、在庫がほとんど無い様子で前年に比べて好調のようだ。ただし、冬物商品は良いが、それ以外は低調のままである。

10. <群馬県 外衣・シャツ>

ニットは春物商戦の時期を迎えたが、大雪に見舞われた影響等で消費者の購買意欲が落ち込んでいる。今後も気温上昇の遅れによる春物商品の売上減少が見込まれる。

11. <富山県 絹人織織物>

絹織物は例年に比べて積雪や冷え込みが激しく、需要の盛り上がりには欠けた。

12. <京都府 織物>

白生地生産量は低調。中国の国内需要が旺盛で生糸価格が高騰し続けており、春節を控えてさらに高値になることも予想される。十分な価格転嫁も出来ない模様。また「はれのひ」トラブルが業界・着物のマイナスイメージに繋がらないことを願う。

13. <大阪府 綿スフ織物>

引き合いは好転して来たが、取引条件が厳しい。

14. <山口県 外衣・シャツ>

年末から店頭の動きが良くなり、追加発注が増。2月、3月納期の受注を受けているために追加分のキャパが不足。全体に納期が遅れており、生産に追われている。

木材・木製品製造業

15. <秋田県 一般製材>

関東圏の大雪が物流に影響し、配送が追いつかずに売上は前年同月比で減。原木価格は値上がりしても製品価格は上昇せず。また原木材質の悪化で製品歩留まり率が下がり、収益も低下。記録的な冷え込みで製造機械の一部が凍結し、生産量が落ち込んだ。

16. <栃木県 木材・木製品>

材料を輸入し、加工販売している企業には厳しい状況が継続。大手は最高益のようだが、中小はその恩恵が少ない。賃金アップも良いことだが、現状に合っていない。

17. <兵庫県 木材・木製品>

景況は右肩下がりに感じる。仕入値や運賃が上昇しているが、売値には反映出来ない状況。

18. <徳島県 木材>

売上高・収益状況ともに不変。山間部の積雪の影響で原木調達に苦心。また原料費の上昇で収益が圧迫されている。

19. <高知県 木製品素材>

山間部の積雪でスギ、ヒノキともに出量は2割減。価格はともに5%程度上昇している。

20. <宮崎県 製材>

原木市況は前月比で全体的には弱含みとなり、価格は値下がり傾向。市場への出材量も年末年始や市日変更の影響から入荷期間が短くなり、減少。木製品需要も製品価格がまだ好調とは言えず、依然として原木高・製品安が続いている。

紙・紙加工品製造業

21. <愛知県 段ボール>

前半の荷動きはますますだったが、後半は天候の影響で低調に推移。青果物では葉物関係の生産が悪く、動きも低調化。

22. <三重県 紙器段ボール>

年明け後も寒い日が続く、冬用食品を中心に昨年と同程度の出荷量。また材料となる段ボールシートの値上げが浸透したことから、次は段ボール製品の値上げをお願いしている

23. <愛媛県 機械すき和紙>

ティッシュ、トイレットの29年生産・出荷はほぼ前年並みで推移したが、原料（古紙・パルプ）や燃料、副資材の値上げによるコストアップが収益を悪化させている。

24. <高知県 機械すき和紙>

大手家庭紙メーカーが製品値上げに踏み切らない。パルプ価格の急激な値上げに加え、エネルギー源である重油、運賃、資材関係の値上がりで収益が低迷してしまっている。汎用品であるティッシュ、トイレットペーパーの値上げに期待する。

印刷

35. <滋賀県 印刷>

年度末が迫り、官公庁関連の仕事は指名競争入札等が多いが、前年よりも価格を下げないと落札出来ない。

26. <奈良県 印刷>

納期が短い上に複雑な発注も多い。

27. <岡山県 出版・印刷>

売上高は低水準で推移。印刷材料や配送運賃の値上げが相次ぎ、収益は悪化。

28. <長崎県 印刷>

前年同月比で売上高・収益状況はともに悪化。年末の特需もなく、年が明けても状況は好転せずに低調な状態が続いている。

化学ゴム

29. <神奈川県 石油製品>

原油が値上がりし、連動してナフサ価格も上昇。国産ナフサ価格も前期比で23.5%超上昇しており、次期には5万円を超えると予想されるため、石化製品の値上げは避けられない。

30. <京都府 プラスチック製品>

電子部品や自動車部品、精密機器部品を中心に回復傾向だが、他は受注先によって落ち込んでいる。材料の値上がりや先行き不安もあり、安定感を欠いている。

31. <岡山県 ゴム>

受注は旺盛で操業度が高く、人員不足と残業増になっている。また原材料価格が下がらないことから収益も伸びていない。

32. <広島県 工業用ゴム>

国内自動車生産・販売ともに下期は増加しており、仕事量も増えているが人手不足が深刻で応募がほとんどない。残業の増加に加えて原材料の値上がり等、収益状況は好転せず。

窯業・土石製品製造業

33. <新潟県 生コンクリート>

1月の出荷は降雪の影響もあり、前年同月比64.9%の落ち込み。2月以降も前年割れが続くと予想。

34. <富山県 生コンクリート>

出荷量は需要減少が続くが、また強い寒波と降雪により、前年同月比65.1%の状況。

35. <石川県 陶磁器・同関連>

売上は大幅減。大雪の影響で1週間以上は運送便への影響が大きく、流通も麻痺状態。首都圏や東海地方の降雪もあり、購買意欲が低下。原油・材料費の上昇も厳しい。

36. <徳島県 生コンクリート>

出荷量は正月休みや寒波に見舞われたことも影響し、前年同月比で減少した。

37. <福岡県 骨材・石工品>

軽油等の燃料費が上昇しているが、砕石単価には転嫁できていない。

38. <熊本県 砕石>

売上高は総じて前月比では大幅に減少し、前年同月比は微増。熊本地震の復旧・復興関連事業（官民）の影響が残っているものの、正月休みや降雪等の天候要因で悪化した。

39. <大分県 コンクリート製品>

公共工事の不落や寒波、従業員のインフルエンザによって生産が低下し、売上減・在庫増に。

鉄鋼・金属製造業

40. <千葉県 鉄工>

省力化設備と輸出関連は引合いが多く、好調を維持。昨今は人手不足対策で社内教育等に注力している組合員が多く見受けられる。

4 1. <東京都 金属熱処理>

売上高は前年同月比10%以上の好転。受注増や短納期要求のために休日出勤で対応をしているが、残業規制等もあって厳しい。また原油価格の上昇によるエネルギーコストも不安材料。

4 2. <大阪府 金属熱処理>

受注環境は特に自動車部品が堅調で産業機械や建機も忙しく、11月以降の売上高が前年同月比で10～30%程度の増。ただし、受注増や短納期要求で休日出勤せざるを得ない状況になっており、残業規制等のあることから経営は厳しいままだ。

4 3. <島根県 非鉄金属>

前年同月より売上が1千万近くも減少。稼働日減もあるが、広島方面の一部自動車部品が半減した事が大きく影響。派遣社員が増えて生産性も落ちている。

4 4. <香川県 鍍金>

12月の駆け込み需要の反動が出ている。稼働日数の少なさもあり、生産面は落ち着いたが、原材料の高止まりに加えて物流コスト上昇が収益を圧迫している。

4 5. <福岡県 鋳物・鋳鉄>

機械製造は好調だが、九州地区に恩恵は殆どない。原材料費の上昇、副資材の高騰が毎月続き、若干の値上げ対応をしてはいるが、適正価格には至らない。

4 6. <鹿児島県 機械金属>

見積件数が減少しており、春以降の仕事量に先細り感が出ている。また鋼材価格の断続的な上昇に対し、加工単価の下落傾向や鋼材の品薄による納期の不安等の声も出ている。

4 7. <沖縄県 鉄鋼>

スクラップ製品の販売価格が上昇して売上高が増加しているが、鉄鋼製品の原料となる合金鉄や電極等の仕入価格もアップ。また人件費の高騰で建築コストも増大しているため、受注と施工時との価格にギャップも生じている。

一般機器製造業

4 8. <新潟県 機械器具>

大雪の影響で物流と生産活動に大きな悪影響が出ている。

4 9. <長野県 一般機械器具>

受注増に伴い、人手不足感が増大。新規雇用の難しさに加えて、転職しやすい環境にもあるため、離職防止対応に苦しんでいる。転職希望者も好条件重視が目立っている。

5 0. <山梨県 金属製品>

半導体・自動車関連の製品が回復傾向。物価の上昇から売上高は5%増加したが、収益の改善には至らず。

5 1. <静岡県 生産用機械器具>

受注環境は良好だが、海外向け出張経費の増加や原材料価格の上昇もあり、収益率には中々反映されていない。

5 2. <愛知県 電子工業>

年末年始の急ぎの仕事を受注しても、人件費も増加しており、忙しいばかりで利益に結び付かない現状がある。

5 3. <三重県 一般機器>

原材料の値上がり傾向が継続。組合員各社もコスト軽減に注力している。

5 4. <兵庫県 一般機器>

材料や外注費が上昇しているために売値に転嫁しつつあるが、設備投資の需要はそのことに敏感で、買いの勢いが鈍化しているように感じる。

55. <岡山県 工作機械>

受注は堅調だが、残業による人件費や原材料費等の製造原価の増加により、収益は低調。

電気機器製造業

56. <山梨県 電気機器>

国産初のジェット旅客機の契約40機がキャンセルされた。開発が難航し、度重なる納期延期が原因。コストダウン要請も強く、先行きは不透明。

57. <京都府 電気機械器具>

新規採用が不調。高止まりしている有効求人倍率が採用難を表している。給与条件の向上が必須だが、労務費の上昇も考慮しなければならない。総じて中長期的な経済予測が難しく、設備投資も依然として慎重である。

58. <広島県 電気機械器具>

売上高は前年同月比では減少したが、前月比では増。最低賃金の上昇が経営を圧迫しており、大手は下請に価格転嫁できるが、下請は転嫁が難しい。企業規模を考慮しないで一律に法律を適用されては対応が難しい。

輸送用機器製造業

59. <茨城県 自動車部品>

総体的な売り上げは前年同月を下回ったが、特に大きな落ち込みという程のものでもない。

60. <山口県 鉄道車両・同部品>

車両・精密加工・産業プラント部門ともに作業量が増加。特に精密加工は急増。今後は受注の消化対策を講じなければならない。

61. <愛媛県 造船>

市況が悪い中で仕事量確保のために低船価受注した船の新造船が仕掛中にあり、今年・来年は採算的にも厳しい状況が続くものと思われる。

《非製造業》

卸売業

62. <北海道 各種商品>

個人消費者向け商品は低価格・実用品の需要が高まり、販売価格は低下傾向。数量は増加しても利益率が低下している。

63. <福島県 再生資源>

異常寒波の影響で古紙の市中発生はさらに低下。また中国の古紙輸入枠問題により、輸出数量も依然として低調。鉄スクラップは堅調で価格も高値で安定している。

64. <千葉県 建築材料>

東京五輪まで数量的には維持できるが、その後は激減必至。原燃料や労務費等の上昇でセメント製造事業自体が成り立たなくなりそう。今は氷河期の前の一時的な小康状態と認識。

65. <埼玉県 花卉>

2度の大雪で生産・販売ともに大打撃を受けた。交通障害で一般消費者の出足も鈍い。花卉全般で高値が続いている。

66. <東京都 ニット製品>

1月の寒さで重衣料、セーター等を中心に売上高が上昇。

67. <滋賀県 食料品>

野菜は出遅れていたレタス類、果菜類等を中心に本格的な出荷が期待されたが、全国的な低温・少雨が続き、生育が停滞。入荷量は前年比98%、単価は前年比118%と高値で推移。

68. <奈良県 水産物>

寒波による海水温低下と時化の影響で水揚量が減少。仕入価格・販売価格ともに上昇し、その結果として、取引も伸びずに収益は前年同月比で悪化した。

69. <広島県 蘭製品>

例年1月の売上は低調だが、今年は主要仕向け地の積雪が多く、輸送も手間取って受注減。

小売業

70. <北海道 各種商品>

毎日の降雪と寒さに加えて、灯油や野菜等の高値も収まらない。どの地区でも高齢化が進み、買い物も天候次第となっていることから、買う側も売る側も厳しい状況。

71. <青森県 食料品>

正月の販売実績や冬イベント等は順調に推移したが、光熱費における灯油代高騰が経費を圧迫しているため、新たな課題となっている。

72. <宮城県 青果>

大寒波と大雪は1ヶ月を通して農産物の生育・収穫に大きく影響。入荷量は激減して未経験の超高値で推移。客数も減少し、売上は価格上昇で伸びたが、利益は減少した。

73. <山形県 農業用機械器具>

積雪が例年を上回るようになり、除雪機の注文が増加。製造メーカーに発注しても在庫は底をついており、希望機種を納品するには同業者間で在庫をやり取りして何とか対応している。

74. <神奈川県 青果>

売上高は前年同月対比1.08%減に留まった。販売数量は減少したが、単価高で売上は上昇しても利益確保には至らず。先月に引き続き、葉物類の販売価格が倍以上も高騰しており、今後も1月の大雪でまだまだ価格高は続きそう。

75. <福井県 各種商品>

年始の食品は好調だったが、前倒しセールや福袋の売上は不振。また中旬の大雪で客足が途絶えて厳しい結果となった。また大雪で人手不足が悪化し、開店時間の遅れや臨時休業も出た。

76. <山口県 各種商品>

約3日間に渡る大雪が影響し、売上が大きく減少。客数、売上ともに前年比で大幅減だった。

77. <長崎県 食肉>

営業日の少なさに加えて、中旬の降雪で物流の混乱も生じ、営業活動にも支障が出た。売上・利益ともに前年同月の実績を下回り、厳しい年初のスタートとなった。また人手不足も継続。

商店街

78. <青森県 青森市>

月末の連続降雪と低温で外出にも支障をきたしており、大変厳しい状況。また1月はイベントも少なく、デパート等も大きな催事がないために苦戦を強いられた

79. <岩手県 久慈市>

初売商戦は客数・売上とも苦戦し、それ以降も例年に増して寒さが厳しく、雪による道路凍結やインフルエンザ大流行のためか人混みを避ける人が増えて売上は大幅に減少。

80. <福島県 いわき市>

寒い日が続いて冬物・防寒物の動きは良いが、あまりの寒さに人出は悪い。中旬には積雪もあり、商店街のダメージは大きかった。

81. <新潟県 三条市>

正月明けからの大雪で来街者が少なく、売上高も前年同月比で増加の店舗がゼロで、減少が20%という残念な状況となった。

82. <岐阜県 大垣市>

新年を迎えて大寒波と降雪日が約一週間続き、昼夜を問わず集客減。どの店舗も売上が前年を割り込んだ模様。新規オープン店も天候に泣いたようであり、景況感是最悪だった。

83. <福岡県 福岡市>

年明けは好調だったが、20日過ぎからの悪天候・寒波で客足が止まり、前年を下回る実績となってしまった。

サービス

84. <東京都 飲食業>

長引く野菜類の価格高騰により、経営は厳しい状況が続いている。

85. <神奈川県 温泉旅館>

異常寒波に加えて22日の大雪被害、また春節が今年は遅いことが影響して売上は低迷した。

86. <石川県 旅館・ホテル>

年明けからの寒波で交通インフラが影響を受け、キャンセルが発生。北陸新幹線開通が4年目に入り、「北陸」の情報発信量が総じて減少している。単価も低下傾向にある。

87. <愛知県 おしぼり>

一級寒波の襲来で厳しい寒さが続いているため、飲食店への来店客が減少した。

88. <滋賀県 理容>

来店客数が低迷。長びく景気低迷により、顧客の来店周期が長期化していること加えて、低料金店や他業態の進出で売上減。若者の志向変化や理容師の高齢化も激しい。

89. <和歌山県 飲食店>

仕入値がますます高騰しており、料金に転嫁できない状況が継続。収益悪化のために資金繰りが大変厳しい。

90. <島根県 道の駅>

度重なる寒波で客数激減。気温が例年より低く、人の動きが悪い。特に女性ドライバーは運転を敬遠しているようだ。

91. <佐賀県 ソフトウェア>

IT需要の増大を背景に売上高は増加傾向だが、人材確保(採用)・要員手配が難しく、外部への依存度も大きくなる一方であることから、原価が増加し、収益を圧迫している。

建設業

92. <岩手県 塗装工事>

例年にない寒気と降雪量で仕事が減少。加えて職人不足が顕著となる等、厳しい状況だ。

93. <秋田県 一般建築>

去年の豪雨災害復旧工事に続き、除排雪作業も重なり、一時的に多忙な状態が続いている。

94. <埼玉県 鉄骨工事>

建設需要が底堅く、建築鉄骨の需要も高い。それに伴って材料や外注費等に影響が及び、鋼材や副資材の価格上昇が起きているが、価格転嫁は上手くいかない。

95. <静岡県 総合工事>

山間部の仕事では、寒波や雪の影響で工事に遅延も発生。

96. <大阪府 塗装工事>

人材確保が重要課題。また中小企業の現場において賃上げ等は全く無縁であり、可処分所得が減少しているのが実情である。

97. <山口県 管工事>

寒波で水道管破裂等が多く、2月末納期の受注工事を後回しにしてライフライン確保のために修理・復旧に注力。

98. <香川県 総合建設>

「働き方改革」が審議されているが、地元建設業の場合、現状では週休2日はせいぜい各週が精一杯。完全週休2日制を進めるためには、適正工期の設定と発注時期の平準化が必須だ。

運輸業

99. <群馬県 一般貨物自動車>

稼働日数が少なく、降雪による高速道路の通行止めで延着も発生し、各地が混乱した。運転手不足や労働時間削減から燃料タンクローリーの稼働も制限され、燃料供給に遅れが出た。

100. <岐阜県 貨物運送>

天候不順(大寒波等)により、物流混乱が発生。22日は関東における交通網麻痺により、配送が翌日まで掛かった。またインフルエンザの流行で乗務員の急対応も多発した。

101. <福井県 運送>

軽油価格は前月比で2.4円上昇。また大雪の影響で荷物の配送が滞っている。道路状況が悪く、燃料が不足している。

102. <和歌山県 一般貨物自動車>

軽油価格は前月比で1ℓあたり3円10銭の値上げとなり、燃料費の高騰と高速料金の値上げが経営を厳しくしている。また車両制限令の取締り強化や長時間労働の問題もあり、輸送力不足が一層深刻化している。

103. <徳島県 貨物>

今月は特に野菜が天候不順や今月の異常低温等により、荷動きが少なく低調に推移。また軽油価格は約4円弱の上昇となり、利益確保も難しくなりつつある。

104. <熊本県 一般貨物自動車>

人材確保のための人件費や燃料費高騰から運送コストも上昇している。1月からヤマトHDがアマゾンの運賃を値上げし、ゆうパックも3月から値上がりとなる。

105. <宮崎県 貨物>

燃料は原油価格の上昇や世界的な石油在庫の減少等から、大幅値上げ。ここ数か月値上げが続いているだけに先行き不安な経営が続く。